2021 年 6 月発行（年3回発行）通巻 131 号

子どもたちの明日

Children, Our Future

2021 年 6 月
131 号

目次

- 卒園児のいま
  – プレイタトゥ保育所から　1 頁
- 布ボールの縫製者に聞く　3 頁
- CYR 情報　4 頁

マーチ先生とソポルさん一家

1

卒園児のいま－プレイタトゥ保育所から

1992 年に開園したプレイタトゥ保育所。カンダール州カンダールストゥン群バンクチョーン区プレイタトゥ村にあり、CYK / CYR が初めて支援を始めたところで、これまで 30 年近くサポートを続けてきました。2017 年 11 月に自主運営に移行し、保育者と地域の保護者が協力しながら試行錯誤を重ねています。運営にかかわる様々な取り組みについては、ニュースレター 40 周年記念特別号『子どもたちの明日』（2021 年 1 月発行）で、プレイタトゥ保育所の開園当時から働いている保育者チューン・マーチ先生が、現地の様子を具体的に伝えてくれております。今回は、このプレイタトゥ保育所をクローズアップして、1997 年に卒園した女性のいまについてお知らせしたいと思います。

クム・ソポルさん

プレイタトゥ村出身のソポルさん（31 歳）は、村に保育所ができて間もない頃、3 歳の時にプレイタトゥ保育所に入りました。1997 年に卒業した後、小学校に入学しましたが、両親が経済的に余裕がなく、3 年生で中退しました。その後は、家の手伝いなどを続け、大きくなると、果物の小売りなどで家計を助けていました。自宅から 2㎞程の距離に、中国資本の縫製工場ができ、工場勤務が可能となる年齢制限に達してからは、そこで働き始めました。現在は一児の母ですが、第二子の出産を間近に控え、休暇を取っています。

保育所で学んでいた時の思い出は何ですかと質問をすると、友人たちと築いた良い関係性のこと、と返ってきました。一緒に歌を歌ったり、一緒に声を出して文字を覚えたり数を覚えたり。そのほかにも、具体的には思い出せないくらいたくさんの遊びを、友達と一緒にやったそうです。

家族で保育所を支える

ソポルさんの夫チョム・ヴィチットさんは、シハヌークビル州出身で、プノンペンを生活拠点とし、トゥクトゥクの運転手をして家族の生活を支えています。プレイタトゥ村は、ヴィチットさんのご両親の故郷であるとともに、現在でも叔父や叔母が住んでいます。また、昨今は、COVID-19 の感染拡大の影響でトゥクトゥクの仕事ができなくなり、ヴィチットさんも村で過ごしています。生計手段に従事できずに困難な状況が続いていますが、ソポルさんと一緒に第二子の誕生を待ちわびているところです。

さて、このヴィチットさん。妻のソポルさんと一緒に、プレイタトゥ保育所の運営を支えてくれています。保育所の送電線が切れてしまった時に、ボランティアで修理をしてくれたり、次にお話しするように、村の人々とともに率先して保育園を助けています。保育所は近隣の土地より低くなっているため、雨季になって雨が続くと、毎年のように浸水してしまいます。この浸水が保育所の懸念

プレイタトゥ幼稚園で友だちと遊ぶソポルさんの息子

事項の一つでしたが、それを防ぐために、盛り土を入れることになり、お寺の委員会や副村長、保育士や保護者数名が協力して盛り土にかかる費用を出し合いました。その時、ヴィチットさんも盛り土をトラック1台分（70,000リエル）提供してくれました。この盛り土の投入は大規模で、村をあげての取り組みとなりましたが、そのような時に、卒園児やその家族は常に保育所に協力的であることがうかがえます。

マーチ先生が語る幼少時のソポルさん

プレイタトゥ保育所の保育士チューン・マーチ先生は、プレイタトゥ村出身で、1992年の開園当時から現在まで、30年近くにわたってこの保育所の先生をしています。ソポルさんのこともよくご存じで、彼女が保育所で学んでいた時の様子について、「ソポルさんは、『スロート』で、友達と口喧嘩することもなく、教師や年配者のことを敬うことのできる礼儀正しい女の子でした」と語ってくれました。

「スロート」は、素直な、礼儀正しい、優しい、穏やかなどを意味するカンボジア語で、カンボジアの人々の性格の特徴を表現するためによく使われる言葉です。子どもたちで言えば、たとえば、友達と遊んでいて相手から叩かれたり物の取り合いで負けてしまったりしても怒らないといった姿勢などが挙げられます。

そんな「スロート」なソポルさん。現在は息子さんもプレイタトゥ保育所に通わせています。マーチ先生は、二世代にわたって保育所に来てくれていることを嬉しく思っているとのこと。そして、「ソポルさんの息子さんにとっても、保育所はメリットがたくさんあるでしょう。預けている間に親が仕事に行けることはもちろん、子ども自身が、友達と交流を重ねる中で、何事にも挑戦する勇気を持てるようになります。小学校に上がる前に知識を身に着けられますしね」と語っていました。

二世代にわたって

ソポルさんの息子メーンホンくん（3歳半）は、以前はプノンペンに住む父方の祖父母に預けられていました。両親が仕事で忙しくて、彼の世話をすることが難しかったからです。ところが、祖父母も自宅で商売をしており、あまり相手をしてあげられず、メーンホンくんは3歳を過ぎても言葉を十分に話すことができませんでした。言語コミュニケーションが足りなかったためか、ジェスチャーも他の子どもたちのようにはできませんでした。それで、心配になったソポルさんとヴィチットさんは、メーンホンくんを村に呼び戻し、プレイタトゥ保育所に通わせることにしたのです。しかし、残念なことに、通い始めて間もなく、COVID-19の感染拡大によって、保育所が休園になってしまい、再開するのを心待ちにしているそうです。

地域に根差す保育所の良いところ

マーチ先生によれば、家族の状況に応じて、ソポルさんとメーンホンくんのように二世代にわたって園児に寄り添えるのも、地域の保育所の良いところだと教えてくれました。家族が抱える困難を知り、親の負担を軽くしてあげることはもちろん、生活圏を共にする子どもたちが集い、関わり合いながら、「許し合う」ことができるようになる。知識を得るだけでなく、人との関わりや社会におけるルールを、経験にもとづいて理解できるようになる。そのことが、保育所に通う意義の一つだと仰っていました。ソポルさんが保育所の頃の思い出として、友人との関係性をあげていたことと重なります。

二世代にわたって保育所を利用しているソポルさんの例を通して、地域に根差す保育所が、これからも子どもたちやその保護者たちにとって大切な存在であり続けることがうかがえました。

2 布ボールの縫製者に聞く

皆様のご支援に支えられて、「みんなで布チョッキン」の活動が今年で15年目に入りました。『子どもたちの明日』118号（2016年8月発行）でもお伝えしましたが、布チョッキンは、使わなくなった布を型紙に沿って切り、寄付金とともにカンボジアに送る活動です。その布で、子どもたちの遊具となる布ボールと人形が作られていますが、今回は布ボールを取り上げます。布ボールは、柄や素材が様々な五角形の布を12枚1組にし、子どもたちが遊んでもほつれないように、返し縫いでしっかりと縫い付けます。縫い方はCYKがワークショップを開いて教えています。縫い手は、「村の幼稚園」の保護者や保育者たち。とくに、幼稚園への協力金を出すのが難しい保護者たちが多く、布ボールの縫製料を協力金に当てたりしています。また、彼女たちの作った布ボールは全国の幼稚園に配られています。

現在布ボールを作っているのは、コンポンチュナン州のクロプープル村、コンポンバースロウトゥボーン村、プロスネップ村、チョー村の4つの「村の幼稚園」です。このうち、プロスネップ村とチョー村は、今年3月にCYK / CYRの支援が終了していますが、縫製は続けられています。今回は縫製者たちにインタビューをして、布ボールを縫っている状況や子どもたちの反応についてお伝えしたいと思います。

カンボジアの人々は手仕事が得意

「布ボールを縫うのが好きです。初めにCYKが縫い方を教えてくれ、その時は難しいかなと感じたけれど、一度できれば特に難しいこともなく、縫っていて楽しいです。刺繍と比べると、刺繍のほうが断然難しいですね」。こちらが質問すると、それぞれの幼稚園から似たような回答が返ってきました。縫製者たちは、幼い頃から衣類を繕ったりするのに慣れているせいか、縫製が好きで、楽しみながら取り組んでいるようです。また、カンボジアでは、昼下がりの休憩中などに、動植物や仏陀など様々な柄をクロスステッチで刺繍している女性たちの姿を見かけますが、そうした刺繍と比べて布ボールの縫製はどうですかと聞くと、刺繍のほうが大変だと言っていました。さらに、縫うときにはどんなことに気を配っていますかという質問に対しては、布の配色を考えたり、素材や大きさを合わせているとのこと。とくに、伸縮性のある布とそうでない布が混ざると綺麗な円形にならないので気を付けているそうです。また、型紙より少し大きかったり小さかったりする布もあるので、よく見て合わせているようでした。

手仕事だから良いこと

縫製をするのは、手が空いている時。保育者であれば幼稚園がお休みの日、保護者であれば、稲刈りなどの農作業が一区切りした時の昼下がりや、夕ご飯のあと寝るまでの小一時間です。生業や家事のちょっとした合間にも取り組めるのが、手仕事の良いところです。夜、子どもたちがテレビドラマを見ている横で、お母さんが裁縫をしていたり、プロスネップ村のマーチ・パウ先生からはこんな微笑ましいお話もうかがいました。先生は牛を数頭飼っていて、休日になると子どもたちと一緒に野原に放牧に出かけ、牛が草を食むのを見守りながらボールを縫っていたそうです。いかにもカンボジアらしい光景で、ところどころに立つ、ひょろっと背の高いサトウヤシの木陰に腰を下ろして、ゆったりと手を動かしている姿が目に浮かぶようです。また、近所に住む姉妹や親戚が集まって、みんなでおしゃべりをしながら手を動かす女性たちも多くいます。どの縫製者も、30分から1時間でボール1つ仕上げられるそうで、日常の仕事が一段落して身体を休ませつつ、会話に興じながらいつの間にかたくさんのボールが出来あがっていく、そんな様子がうかがえました。

縫製料の使いみち、縫製への熱意

布ボールを縫うと、１つにつき1,500 リエルが縫製料として支払われます。縫製料は「村の幼稚園」への協力金に当てることが大きな目的ではありますが、日々の食事や、子どもの就学のため、子どものお小遣いなど、家族の生活に役立てられています。カンボジアでは、さきほどあげた刺繍の販売をはじめ、服の仕立て、バイクや自転車の修理など、手作業で収入を得ている人々が多くいます。そのためか、子どもたちも、布ボールを縫っている母親を見て、「お母さん、何のためにボールを縫ってるの。僕が学校に行くためのお金とか、僕たちが食べる食べ物を買うためのお金をもらうの」と興味津々に尋ねてくるそうです。このように喜ぶ子どもたちにも後押しされ、縫製料をもらえることが縫製者にとって作業を継続する力になっています。

また、お金に関してこんな話も聞きました。さきほど紹介したプロスネップ村のパウ先生は、布ボールを縫うために、貯蓄していたお給料に加えて牛１頭を売って、ミシンを１台購入したそうです。手縫いしていたときは放牧しながら縫っていましたが、ミシンを迎えてからは、家でやっているとのこと。プロスネップ村は CYK / CYR の支援が終了して自主運営に移行していますが、これからも縫製を続けていきたいと語ってくれました。

子どもたちと寄り添い合う

布ボールを縫っている母親を見ると、子どもたちが傍に来て嬉しそうに話しかけたり、お手伝いをしてくれています。どの村でも、布の色がさまざまにあるのが面白いようで、コンポンバースロウトゥボーン村からは、「1 つの色を縫い付けて、また別の色を縫い合わせると、子どもたちが興味深そうに覗き込んできます。子どもたちは異なる色柄が組み合わさったボールで遊びたがるんです」という声が聞かれました。また、母親が縫っていると嬉しそうに準備を手伝ってくれたり布の色を選んでくれたりしながら、いつか自分たちも縫いたいと言ってくれるそうです。「お母さん、縫うのは大変？でも、たくさん縫ってね。その代わりに私が牛をみてあげるから」と、家の仕事を率先して引き受けてくれることもあるとか。また、プロスネップ村では、お友達の母親が縫っているのを見て、「私のお母さんも縫えるようになったらいいのになぁ」と言ったり、「僕にボールを１つ買わせて。家で遊びたいの」とお願いにきたりするという話も聞きました。

このようなやり取りの中で作り出される布ボールは、全国の幼稚園に配られ、子どもたちの遊具となります。縫製者も、自分の縫ったボールがカンボジアの子どもたちの役に立っていることに喜びを感じています。「ボールは子どもたちの運動能力を高めてくれます。そう思うとやりがいがあるし、嬉しいですね」とプロスネップ村のパウ先生は話してくれました。子どもたちと寄り添い合いながら創り出される布ボール。みんなが笑顔になれる活動がこれからも続けられることが期待されます。

CYR 情報

2022 年カレンダー

これまでに撮影した写真でカレンダーを製作することを企画しています。

11 月にお届けする次号ニュースレターに申込書兼振込用紙を同封しますので、そちらに記入してご注文ください。

会費お振込み・活動へのご支援は、下記までお願いいたします。

郵便振替　　00110-8-36227
三菱 UFJ 銀行　六本木支店（普通）1351747
特定非営利活動法人幼い難民を考える会

幼い難民を考える会（CYR）は認定 NPO 法人です。
ご寄付は税制優遇措置の対象となります。

子どもたちの明日 131 号
発行日：2021 年 6 月 30 日　発行者：関口晴美

プノンペン事務所（CYK）
#170,Borey Piphub Thmey Chhouk Va III,
#55, St.05, Prey Sala Village, Snagkat Kakab,,
Khan Posen Chey, Phnom Penh, Cambodia
TEL: (+855) 23 882 972
Email: info@cyk.org.kh
URL: http://www.caringforyoungkhmer

特定非営利活動法人幼い難民を考える会
東京事務所（CYR）
〒110-0016　東京都台東区台東 1-12-11 青木ビル３B
TEL: 03-6803-2015 FAX: 03-6803-2016
Email: info@cyr.or.jp　　URL: https://www.cyr.or.jp/